

普及活動に関する令和2年度有識者会議結果報告書

1 実施日時

書面開催（令和3年2月）

2 有識者会議の構成

区分	人数
学識経験者	1人
中小企業診断士	1人
消費者	1人
農業者	1人
その他（農業関係団体職員）	1人
合計	5人

3 普及活動課題に対する主な意見

普及活動に関する令和2年度有識者会議は、さいたま農林振興センター、川越農林振興センターが取り組んだ普及活動について書面にて意見交換を行った。

普及活動に対する主な意見は次のとおりであった。

(1) さいたま農林振興センター

課題名：チコリーの栽培安定に向けた対策支援

ア 評価できる点

- ・チコリー産地の維持に向け、気候変動に伴って顕在化した苗立率の低下や新たな品種の定着に向けた省力化など生産者が直面する課題を細かく分析し、それぞれの課題に応じた適切な目標を設定したことが評価できる。
- ・海外からの優良品種の直接輸入に取り組み、苗立率を改善するとともに種苗費用を削減するなど生産者の経営に大きく貢献している。
- ・新規生産者の定着に向け、部会員と連携して現地検討会を開催するとともに巡回指導を行い、根株の収量向上につながった点が評価できる。
- ・生産者の直面する課題に対し、目標数値を大きくクリアできたことが生産者の励みになったと思われる。

イ 今後の普及活動への改善点や方向性への提言

- ・根株の収量が上がり、生産・出荷収量にどのくらい変化が出るのか継続して調査してほしい。
- ・今後は、成果をPRし、地域へのチコリーのさらなる普及に取り組んでほしい。

- ・ チコリーの作付けが増えることは、需要の創出も念頭に置かなければならない。生産者とともに、市内レストランや小学校での導入、レシピコンテストなどにより消費者にチコリーに触れてもらう機会を増やす取組を実施し、安定的な販売先の確保や地域住民への販売・周知などにも取り組んでほしい。

(2) 川越農林振興センター

課題名：目指せ金賞！地域で挑んだ酒米栽培

ア 評価できる点

- ・ 品質の向上と収量の安定という目標は、生産者と実需者の両者にとってメリットのあるものとなっている。
- ・ 目標の達成に向け、PDCAサイクルのプロセスで取り組むとともに、講習会や個別巡回によるデータに基づいた指導を行い、品質向上に向けた栽培技術の確立に複数年の計画で取り組んだ点が評価できる。また、生産者とのコミュニケーションを図り、技術・意識の底上げを通じて、実需者のニーズに応える品質の確保・改善を実現した取組である。
- ・ 目標であった「川越産米 100%の地酒で全国新酒鑑評会で金賞受賞」を達成したことは、生産者と清酒製造業者との農商工連携の成果であり、地域の活性化に寄与するとともに、生産者のやる気につながったと考えられ、大いに評価できる。

イ 今後の普及活動への改善点や方向性への提言

- ・ 県産の酒米に対するニーズは高いことから、成果を広く県内に広げることで、新たな取組が普及することを期待する。その際には、取り組みやすいように、AIなどスマート農業の活用も必要ではないか。
- ・ 甘酒などの加工品の創出など次なる取組に期待したい。また、川越という地の利を生かし、観光と農業を組み合わせた農業体験などの活動によりさけ武蔵のファンづくりにつなげていただきたい。
- ・ 今後、酒米の収量向上に向けた栽培技術を確立することで、さらなる収益向上につながり生産者のモチベーションを高められると考えられるので、継続した普及活動を期待する。